



地区別のまちづくり計画が提案される

# みんなのでつくる 私たちのまち



まちづくり全体会議

提言書を提出する富士駅北地区の代表

「市民が市政の主人公」との考え方のもとに進められていた「まちづくり会議」の地区別計画がまとまり、8月11日、各地区の代表者が出席して、市役所で全体会議が開かれました。

「まちづくり会議」は、各地区で延べ274回、8,200人が参加、出された意見は1,544件、意見のうち提言はハード事業640件、ソフト事業262件を数えました。

## ふれあい・緑・心豊かな人づくり

各地区の「まちづくり会議」で出された意見・提言をまとめると、道路、河川の整備などを中心とした「ふれあいのある快適なまちづくり」災害対策や公園・緑地の整備などを中心とした「緑豊かな安全なまちづくり」などに意見が集中しました。

また、教育や文化に対する意見・

提言も多く、「心豊かな人づくり」の重要性も指摘しています。

このほか、「いきいきとした産業のまち」「健康で住みよいまち」「思いやりのある福祉のまち」「高齢者の生きがいと活力あるまち」などについても、それぞれ地区の特徴や問題点を考えた意見・提言が出されました。市は、10月中をめどに提言に対する回答を出し、「ふじ21世紀プラン」に生かしていきます。

## 親子で公共施設を見学

### 親と子の市政教室

市は、8月9日親子で市内の公共施設を見学して、社会科の勉強に役立ててもらおうと、「親と子の市政教室」を開催しました。

当日は、37組97人の親子が参加、2台の大型バスに分乗して、公設卸売市場、西部浄化センター、丸火自然公園、総合運動公園、博物館、消防署の順に見学しました。

公設卸売市場では、大型冷蔵庫に入り南極と同じ温度という氷点下35度の冷たさを体験、西部浄化センターでは、下水の処理方法などを勉強しました。

最後の見学場所の消防署では、ハシゴ車の操作に全員が熱心に見入り、参加者たちは「大変勉強になりました」と喜んでいました。

▶ハシゴ車の操作に見入る子供たち

